

第3章 関係団体（関係者）調査 結果の詳細

各設問に対する意見等は次の通りとなっている。なお、文章の表現や表記については、ほぼ原文のままで掲載している。

1. 最近の子ども・若者の状況

問2 最近の子どもや若者たちと接して感じることをお答えください。（自由記述）

■ あいさつや言葉づかい、態度

- ・私の周りにいる子どもや若者はあいさつもきちんとでき、礼儀正しいと思います。小さい時から地域で顔見知りになっている事が大切ではないでしょうか。また、電車の中で知らない若者が席を譲ってくれたりして親切なところもあります。
- ・知らない人と話してはいけないと親から言われているのか、あいさつ（おはようございます）も言わない子が時々いる。
- ・知らない人には声をかけられても返事をしない…多くなっていますね。知っている人に声をかけられても、ためらいがあるようです。
- ・あいさつができない。満足しすぎて感動する心がなさすぎる。
- ・小学校、中学校で朝のあいさつができない子が多いです。
- ・小学校の下校時に声（お帰りなさい）をかけてもなかなか返事がない。世相を反映しているのか。
- ・自分の興味のないことについて、かなり高学年まで知識が少ないように思う。
- ・道徳概念、社会通念、公德心が欠如しているように思う。
- ・変わらなければいけないのは“親”です。あいさつは、親がしなければなりません。
- ・言葉づかいや発音が変化してきている。例えば、「どれだけ」を「どんだけ」。マスコミ（テレビ）の特にお笑い関係に影響されていると思う。
- ・話しかけると、割合敬語を使う。目上の人というふうにわきまえているのだ。
- ・小学生は、あいさつのできる子が多い。中学生は、子どもともいえず大人ともいえずで接し方が難しい。
- ・あいさつなど返してくれる子もいるが、全く無視されることもある。それは最近のいろいろな事件で警戒しているということかと思わざるを得ない。
- ・自分の意見はしっかり言えるが、人の話が聞けない子どもが多い。他人への思いやりが薄れているように感じる。
- ・話す際、相手の顔を正視しない傾向。
- ・自分の考え方、意見をはっきり言わない、言えないケースに遭遇。
- ・自分の考えがはっきりしていて、述べる事ができる。
- ・身ぎれいでおしゃれ。
- ・礼儀正しい。
- ・高学年になればなるほど、礼儀知らずが多くなる。

- ・小学4年生になっても善悪の区別がつかない子がいて驚いた。
- ・子どもも若者も、押し並べて言葉使いが乱暴で汚い。

■受動的、たくましさがない、自立できていない

- ・習い事などすべて親が送り迎えで、安全の面から見ると良い事なのだが、親も忙しく、子どもも落ち着かず、親も待っている間スマホに目が行き、子どもを常に急がせている。
- ・「危ない」と言われて育っているが、なぜ危ないのかを知らない様子。危ない事に会った時の対応を知らない。「安全・安心は当たり前ではない」と思っている。自分で生み出すものである。
- ・ひとりひとりはとても心やさしい。また、言い替えれば弱い。
- ・何事も安易に対応しすぎる。
- ・核家族が多いようで、子どもも親に甘えが強く、親も子どもに優しすぎるよう感じ、自立ができていない子どもが多いと感じる。
- ・道具立てや不足なリソースがあるとすぐあきらめる。（誰かから与えられるまで自分から動かない。与えてもらえるものと思っている。）
- ・いろいろな事に興味を示し挑戦するも、深く追及はしない。結果、その事をきちんと理解できないので、その後の行動は消極的になる。自信がないのでいろいろな事、基本的な事をできない事が多い。
- ・警戒心が強く、自己肯定感が低い。接する大人が少ないので、直接声をかけられる事や、ほめられる事が少ないのだと思う。
- ・すぐにキレル。我慢ができない。おとなしい。言うことは一人前。
- ・レクや遊びでは受け身で、指示を待っている子どもが多いと思う。
- ・指示されたことに関しては素直に行動できるが、指示以外のことには関心をもったりエネルギーを使おうとしたりしない子が増加している気がします。
- ・言葉が乏しく、不快な気持ちなどの表現が刺激的で単一的。
- ・すぐに休みたがる。
- ・全体的におとなしく、こじんまりとまとまっている感じがします。もっと自分の意見や考えをしっかり述べ、自己主張してもよいのではと思います。
- ・自己肯定感が低く、向上心が感じられない。
- ・我慢することができない。一生懸命は、ばからしいと思っている。
- ・自立ができない。
- ・自分の気持ちを言葉にかえて相手に伝えることが苦手だと思う。
- ・良い言い方をすれば「自立」する年齢が低下しているように思う。子どもがスマホを持って外に出ている時間が長くなり、夜も遅くまで小学生でも外が暗くなっても外に出ている。長期休みもコンビニ弁当で1日を過ごす。親が手をかけていない子が多くなったということ。まだまだ家族と一緒に行動すべき時間を十分に過ごせていない子どもが多い。愛情が不足しているが、そこに気づいていない親と子。
- ・自分自身の事が中心で、他の人への思いやりの気持ちが薄れている様子が見られる。
- ・面倒な事は進んで関わらず、誰かがするのを待っている場面がある。
- ・受動的なことが多い。自分から何かをしようとしらない。

■遊び

- ・児童館など、多様な施策の中で楽しく生活していると感じます。
- ・子どもにとって、校庭開放、広場事業等、安心な環境は整備されていると思います。落ちつきがあり、あいさつもでき、自分の立場を正確に理解している。
- ・外で元気に遊ぶ子どもたちをあまり見かけなくなった。外で遊ぶ所もあまりなくなったからではないか。
- ・私が接している限りにおいては、今も昔（私が子どもの頃）と本質的には変わっていないと思う。ただ環境が変わり、遊びも増えたことで、変わったように見えるだけなのではと思う。
- ・スマホ、ケイタイに夢中になっている子どもが広がっている。
- ・学校関係の委員であり、児童・生徒と接する機会がある事からあいさつを良くされる。大部分の子どもたちがスマホでゲームをしているのが目立ちます。それも長時間。メガネをかける子どもたちが更に増える原因かも…。
- ・小学生は、素直な子どもが多いが、ゲーム等に夢中になっているのが心配。もっと、戸外で遊べる環境が必要。高校生・大学生は心の優しい若者が多いが、たくましさに欠ける。
- ・ゲームや携帯電話の話が多い。
- ・住宅が増え、子どもたちが自由に動きまわられる広場のような場所が必要と感じます。
- ・ゲームとスマホが気になります。
- ・群れて遊ぶ姿がなくなった。電子ゲームばかりやっている。

■人付き合い

- ・孤立することに大きな恐怖を抱えている感じがする。
- ・仲間はずれになることを恐れ、無理をしてでも友だちに付き合ってしまう。いじめに発展。
- ・家族よりも友だちが大事と思っている。メールが届いたら無視できない。

■明るく楽しく過ごしている姿

- ・地域や学校生活の中で子どもと接して感じることは、いつも明るく元気で、あいさつや動いている様子を見て、家庭の中で明るく生活しているように思います。
- ・子どもたちに変わりはなく元気に生活していると思う。ただ、家庭環境、高価なゲーム機、スマホ等で、悩んだり苦しんでいる子もいる。家庭内を健全に。親を育てることがとても重要である。
- ・青少年委員会の事業の中で接する子どもたち（小5～高3）、青年（学生）は、みなさん素直で積極的に私にパワーをくれる存在です。

■その他

- ・親や教師の前ではいい子でいようとしている姿と、それ以外の場で、そうではない姿の違いが大きく、その姿を親は知らないでいる。
- ・子どもはいろいろな失敗をしながら友だちとの関係の中で社会性や生き方を学ぶと思うが、いろいろな時間を大人の考えでうばってしまっているのでは。

第3章 関係団体（関係者）調査 結果の詳細

- ・あまりわがままではなく、グループの中においてもルールを守って遊び行動できている。また、お手伝いを良くしている。
- ・私の住んでいる地域では特に問題はないと思われるが、全体的に見るともう少し元気が欲しい感じがする。特に高学年層にそれが見られる。
- ・電車内等でスマホに熱中のあまり、高齢者、子どもを抱えた母親が目の前にも気づかず自分の世界に入ってしまったようで実に嘆かわしいと思う。
- ・現在、ふれあい広場で児童館や地域センターに行っていますが、そこに来る親子の方々は、お母さん同士も仲良くしたりお子さんたちも楽しく遊んでいて、良い環境だと思います。ただ、ふれあい広場などに来ないで家で引きこもっている親子さんがいたら、そういう方々に配慮をしなければならないのではと思います。
- ・交通ルールを守れない（自転車運転中のスマホ・スピードなど）。
- ・昔はあまり問題にされなかった発達障がいの子どもの多くなっているようだ。対応についてもひとりひとり違うので学校でも根気強く対応して下さっている。
- ・小学生や中学生は、とにかく忙しい。小3で習い事を3つや4つやっている子がとても多い。平日ピアノ、英語、テニスなどなど。土日もサッカー、野球、スイミング、ラグビー、バスケットで、家族単位での休息をいつとるのだろうか心配になる。
- ・体力面も精神面も10年前くらいと比較して劣ってきていると思います。もちろん、全員がという訳ではありませんが、実年齢より幼稚であったり、若者に限って言えば社会性や礼儀が身につけていなかったり…と感じます。

2. 最近の子育て家庭の状況

問3 最近の子育て家庭と接して感じることをお答えください。（自由記述）

■子どもへの接し方

◆しからない・甘やかしている

- ・しからない。子どもへのかかわりが多すぎと、その反対の両極化。
- ・家庭生活が子育て中心になりすぎ、子どものわがママが通りすぎていないかと思う。
- ・共働き家庭が増え、普段子どもと接する時間が短いからかあまり叱らない。しつけができない。親自身が、あいさつできない人もいる。
- ・親も子どもお互いに甘いと思います。親世代が問2の若者層とあまり変わらず、そのまま親になってしまった感じがします。ただ、昔よりいろいろなレクリエーションやツールが増えた分、親子で楽しく過ごせる機会が増え、そのような意味では良い時代かと思います。
- ・特定の家庭との接する機会はないが、少子化の中で感じる事は、親が子どもを甘やかし過ぎて育てているように感じる。
- ・何でも与えて甘やかしている。
- ・早寝早起きができていない。夜遅くまで飲み屋に子連れで来るなんて考えられない。
- ・自転車や車で子どもを運ぶ子育てをしている。歩かせることをしていない。
- ・大人（親）が全てをやっている感じがします。もっと子どもたちにいろいろなことをチャレンジさせてあげてほしいと思います。
- ・少子化のため必要以上に子どもをかわいがりすぎ。過保護。子どものためにも良くない。

◆忙しく子どもと過ごす時間が短い

- ・子どもと一緒に食事をしている事が少ないように思います。
- ・働いているお母さんは、時間に追われているような感じを受ける。
- ・働いている母親が多いためか、子育てが雑になっている。
- ・親も子どもスマホをやっている時間が多く、会話が少ない。
- ・ゆったり感がない。
- ・両親共に忙しく、子どもと向き合う時間が少ない。親自身が認めてもらいたいと思っている。自分の時間が大切。他の人の目が気になる。他と比べて、一喜一憂、振り回されている。
- ・一生懸命子育てをしている親がほとんどだが、親は仕事等で忙しいようで、大変そうな印象。

◆不安・悩みを抱えている

- ・育児に悩む親が多いと考えられるが、一方で育児そのものを安易に考える親もいる。
- ・児童虐待のニュースを聞くにつけ心が痛みます。その反面、子育てに一生懸命の母親に接するとホッとします。しかしながら、もう少し力を抜いても良いかなと思うことがしばしばある。
- ・SNSに関する知識が子どもたちの方が上で、親たちがついていけない状況にある。親のいうことが絶対だった昔に比べて、子どもたちが情報を持っている分、親を敬う気持ちがなくなっている。
- ・親の責任がなさすぎる。親が自信を持って子育てしてほしい。祖父母の存在を大切にしてほしい。

- ・知識はあっても現実とのギャップに悩んでいる。子育ては思い通りに（理想通りに）いなくて当然という余裕があると良いですね。
- ・昔と比べて（私の子育て期は約30年前）、父親の家事協力は増えていると思う。それとは逆に、我が子を育てる前に乳幼児期の子どもと接してきた方が少なく、「どうしたら…」と思うことが多いように思う。
- ・子どもの育て方や子育ての悩み等は私たちが子どもを育てていた時とあまり変わらないと思います。ただ、今の子育ては閉鎖的な環境の中で行われているので母親への負担が多いのではないのでしょうか。

◆子どもを大切に育てている

- ・数多くはありませんが、子どもさんたちを大事に育てているように思う。
- ・いいことかもしれないが、大事に大事にと感じるように育てている。
- ・子どもの人数が少なく、親が大事に子育てを楽しんでいる姿が多く見られる。
- ・月齢が近い子どもの成長に左右される親がいるが、問題がない時は様子を少し見てほしい事、個人差がある事、あまり神経質にならず成長を信じる事を伝える。

◆その他

- ・親がむだと決めたものは子どもに与えない、家に置かない。（例えば、画用紙・折り紙・図工の作品など）
- ・少子化を反映し、自分の子どもへの注力度は高いが、他の子どもへの配慮は希薄に思える。
- ・モラルの低下。学校の授業公開中、未就学児が騒ぎながら教室内や廊下を走り回っても注意しない親や、廊下で大声で話す親、学校以外の場でもさまざまな場面を目にします。「お客様は神様」なのか、それを指摘できない学校や店や他のさまざまな社会。昔は当然の事が今は当然ではなく、それを間違っていると認識できていない親世代、どこかで誰かが一つ一つ丁寧に教えてあげなくてはならないのだが、それが難しい。
- ・子どもが子どもを育てているよう。
- ・親の期待が多く、その中で必死にがんばっている子ども。家庭はわがままでいいのだよという大きな目でみれる親であってほしいと思う。ゆっくりとしたところが家庭。
- ・自分の子どもはどんな風に育ててほしいと思っているのか、形やうわべではなく人としてということを経験する場面を感じられるような（自然な形で）いちばん落ち着く場所が家庭であってほしい。
- ・子どもの習い事や塾などのむだな教育費が高い。学校の勉強をしっかりとさせた方が良い。

■孤立、自己（家庭）中心

- ・家庭の行動範囲（人付き合いの範囲）が狭い。好き嫌いで付き合いを分けている。
- ・利己的、権利主義的な保護者をよく目にする。子どもが親の影響を受けている。一方で、しっかりした保護者と子どももいて、安心する事も。
- ・周りより自分たち中心というのが大きいかと。思いやりなど育ててほしいと思う。
- ・家族内でこじんまりとまとまっている。
- ・母親が我が子ばかりみている。他人のことはそっちのけな感じがする。
- ・孤立している家庭が多くなった。コミュニケーション不足なのか手段を知らないのか、ささいなことでトラブルになってしまうケースがある。

■男性の育児参加

- ・息子たちが家庭を持って感じる事ですが、子育ては母親だけでなく、父親もイクメンという言葉の通り、昔と違い協力しているように思います。
- ・父親の育児参加が多くなっている。
- ・昔と比べると親子のみの世帯が増加している。父親の子育て参加は増えてきているが、まだまだと感じます。

■子育てに関する情報の収集

- ・悩み相談、育児相談、情報収集、買い物などインターネットの占める割合が多い。
- ・いろいろな情報を知っている親が多いが、まったく知らない家庭もあり、かなりでこぼこがある。

■その他

- ・ふれあい広場等に参加する親子は子育てに対する意識も高く、仲間づくり親業について考えているようだ。プレ幼稚園が始まり、親の不安もあるようだ。（入園前からプレに入らないと園に入れず等）ふれあい広場に、妊婦さんも参加し、子どもの発達を見れる状況があると良い。
- ・特に若い方に多いのは、結婚して両親と一緒に住んだり生活するのは望まず、いざ子どもが生まれても二人では育てる力がないのか男親の負担が増しているようです。それぞれのできることが少ないので二人で協力していても半分ぐらいしかできないようです。仕事と家庭の両立ができなくなってきた結果、今どきといわれる子どもたちが増えたように思えます。
- ・若い夫婦に子ども一人か、たくましい母親に子ども三人パターンがあるように思える。どちらも微笑ましいが、男性の頼りがいの有無か。
- ・父親の育児参加が増えつつある反面、小さな子どもがいるのに離婚するケースも見られ、家庭環境に差があると思う。
- ・それぞれ家庭環境の違いがあると思いますが、子育ては親の義務であり大変な事です。それだけに学校も含め周りの地域の協力が必要と感じる。
- ・子育て支援施策を上手に活用していると思います。
- ・保育園通園児とそれ以外の幼児の家庭育成期間における差が発生するのでは。
- ・無理をして塾及び習い事に通っているのではないか。
- ・私の家はお店をしており、他市の子どもたちも大勢来店します。学校名を聞くと近隣市の子どもたち、小平市の子どもたちです。落ち着きがなく、あいさつができない子どもたちは近隣市でした。子どもたちの行動を見ると、己の家庭での育て方が見えてきます。
- ・お子さんの人数が1人、2人が多く、愛情を持って育てている家庭が多い一方、家庭環境に少なからず問題を抱えている家庭も微増していると感じます。
- ・子どもの人数が多いほど、忙しく大変だなと感じる。
- ・スーパーなどで、母親の子どもにかける言葉づかいが悪い。
- ・一人親家庭が増えている。

3. 地域や社会の子どもたちへの影響

問4 ご自身の活動を含め、地域や社会が子どもたちにどのような影響を与えていると思いますか。（自由記述）

■地域・社会とのつながり

- ・親子だけではいきづまる、いろいろな第三者としての価値観や安心感を与えられるように。
- ・子どもたちの世界は大人の社会の縮図。会社などで起こっているいじめが、子どもたちの世界でも繰り返されている。地域の大人は、もっと子どもたちに関心を持った方が良い。そうすれば子どもも地域に関心を持つようになると思う。
- ・青少対での行事などで、親子・地域のつながりを感じるが、その場に出てこない子を心配してしまう。青少対の行事では、縦のつながり、ルールなど、知らず知らず身につけられると思うので積極的に参加できる状態を作れたらと思う。
- ・社会性を獲得していく段階での、少し広い世界の学びの場。
- ・大人と子どもが一緒になって何か活動したり遊んだりする機会は、閉鎖的な子どもたちの社会から子どもたちを解放し、新たな能力・可能性を広げるきっかけになっていると思います。
- ・核家族の子どもが多いため、異世代交流や地域の行事への参加や地域の方の学校行事への参加により、幅広い知識を学ぶ事ができる。
- ・学校など訪問した時に、元気にあいさつしてくれて、明るい表情を見せてくれると安心する。
- ・青少対やPTAなど、地域の皆様の支援が子どもたちの成長に寄与していると思います。
- ・立場上、親からは安全な人と認知されていると感じる。今年もハロウィンのお菓子配布を依頼されたが都合により辞退。大きい範囲で子育てに理解はある子どもたちの味方。
- ・あいさつや返事がきちんとできるよう願っている。
- ・地域の方が学校（教育現場）に入り、いろいろサポートしている。地域の方も子どもから元気をもらっている。
- ・行事等を通して、多くの子どもや大人と接する機会があり、社会性・生活習慣が身につくと思います。
- ・子どもがいろいろな事を学ぶためには、いろいろな人と接する事が大切であり地域の活動もその一部。

■声かけ・見守り

- ・声をかけても反応のない子どももいる。家庭で、知らない人にはそうするよう話しているのかも。地域と小学校、幼稚園、保育園などとの交流、いろいろな面での連携ができるように考えていきたい。関わっている居場所には学校帰りの小学生が宿題をしにやってくることもある。
- ・他人の目があること、他人にしかられること、社会が地域の子どもの育てることが大事ですね。
- ・いつも見守られているということを感じさせている。
- ・何かで失敗した若者等と接した時、話をたくさん聞いてほしいのだな、認めてほしいのだな

と感じます。

- ・親だけでなく、周囲の大人が見守りフォローしてくれていると子どもたちが感じてくれたらうれしい。
- ・子どもは宝です。子どもは親の背中を見て育つといわれています。もう少し子どもに目を向ける時間的なゆとりが、この社会に求められていると思っています。
- ・声かけをする事で安心・安全（見守りも含む）な地域になっていくと思いたいです。
- ・子どもたちは、自分を見て声かけしてほしいと思っている。小さな事でもほめてあげたり勇気づけてあげたり、いつも見守っている事を知らせていく。
- ・「良い意味での他人のおせっかい」が大切と思う。民生委員の地域での見守りは消極的な方法ではなく、むしろ積極的に健やかな社会を作る下支えと思う。
- ・地域での見守り、あいさつを自分から進んで行いあいさつができるようになりました。
- ・子どもたちに「見守ってくれている人がいる」という意識を持ってもらうことは大切だと思います。
- ・常日頃、子どもさんたちが安心して地域生活ができるよう見守り、声かけ等をして、続けていく事が大切だと思います。

■地域・社会・時代の変化

- ・今は子どもたちが子どもらしく生き難い社会のような気がする。思いきり体を動かして遊ぶ場がない。お金をかけなければ楽しめない遊び（ゲーム等）ばかりがある。ある意味金もうけの手段にされている。私としては、お金で得られる楽しみ以外の楽しみを子どもたちが発見できるような接し方をしていきたいと考えている。
- ・社会的には情報過多によるデメリットがあると思います。地域とのコミュニケーションを図る試みが増え、つながりの意識は少しずつ増えつつあるのではと思います。
- ・問2や問3に答えたこと（補足：親や教師への態度とその他の場での違いがある、乳幼児期の子どもへの接し方に困難を抱える保護者の増加）から起こる問題を少なくすることができていると思う。
- ・マスコミ、メディアが子どもたちに一方的な思い込みや概念を与え、判断等に悪い影響を及ぼしている。
- ・地域の大人が子どもをしからなくなり、大人を対等だと思いが上がっている。
- ・近頃、特に幼稚園、学校から帰宅後、地域で遊ぶ姿を目にしなくなっている。
- ・社会の変化で変わる場合があると思われます。私自身まずは大きな事を見ず足元である地域でのより良い方向への活動で子どもたちと理解を深めたい。
- ・携帯、スマホ等の利用の仕方。大人たちの気づかい。社会の動きが早すぎるので、その対応を大人たちが考える。

■子どもの手本となる言動

- ・私たち大人の行動や言動を本当によく見ていると思います。自ら見本にしてもらえる行動や言動が大事だと思います。
- ・特に何というわけではありませんが、子どもたちが大人になった時に、こんな人がいたなあ

- と覚えていてくれて、自分たちも手伝い等に参加してくれるようになればとは思っています。
- ・親以外の大人の見本なのに、今の大人たちは他人の子に積極的に声かけをしない。特に中学生くらいになると、数人でたむろしている時には見て見ぬふり。関わる大人によって、全く違う経験をしていると思う。
 - ・少子化からか、子どもを甘やかしているのではと思うことがある。特に公共の場において、子どもの行動は親としてしつけてほしいと感じる。
 - ・自分を含め地域の人たちの日常生活姿勢が良い影響を与えるのではと思います。
 - ・大人の姿を見ながら、共に活動したり、見守ってもらったりと、未来の子どもたちへの一助になっている。

■居場所づくり

- ・児童館などは、赤ちゃんから小学生やそれ以上の子どもたちにも行事が多く、よりどころとなって、良い環境を作っていると思います。
- ・子どもの居場所が少ない。子どもの明るい声が聞こえる地域にする。
- ・地域ぐるみの催し物が少なく、TV・マスコミ媒体を中心とした画一化されたイベント等に傾いているのではないか。
- ・委員としての活動では、それなりに居場所のない子たちにはそのような場を提供できて、多少ではありますが、お役に立てているとは思っています。一般論で言うと、今の世の中あまり地域との関わりがないので、全く見ず知らずの子どもたちには、何ら役に立っていないのが現状かと思われまます。
- ・ふれあい広場においては、母親が私たちや他のママと話したりする事により、少しリラックスできているのではと思う。未就学児・幼児は、他の子と交わり、自然に集団におけるルールを学び、また、自分を主張するトレーニングができていているように感じている。

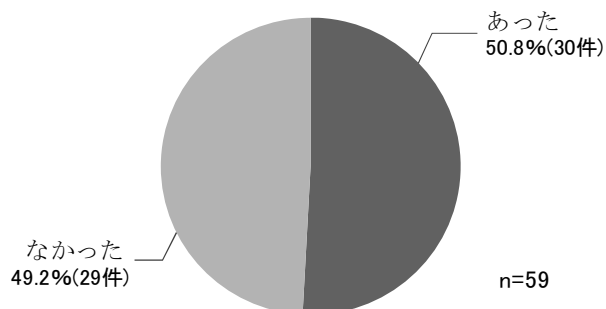
■その他

- ・選挙権が18歳以上となったことで、今後の社会への影響は大変大きいと思う。正しい判断と責任をどう伝えていくかが大人の責任だと思う。あわせて、若者や子どもたちがオレオレ詐欺の出し子にされているように犯罪に巻き込まれないようにする教育も大事だと思う。
- ・学校での教育もあるが、あまりに情報が多すぎ、かえって混乱気味では。
- ・意見は具申しているが、どのくらい影響があるかはわからない。
- ・やさしく接しているので、悪い印象はないと思う。
- ・話を聞いてあげたり、専門の機関を紹介したりすることで、わずかだが助けにはなっているかもしれないが、助けを求めるための声をあげることができている子どもたちはまだまだほんの一部のような気がします。
- ・我々の活動に対する親（学校関係者と接点の多い母親）の理解を通し、おおむね子どもたちにも基本的な考え方は踏襲されていると感じています。
- ・学校の役員とか地域の役員、また、民生委員等いろいろな活動をしてきましたが、ただ精一杯自分の子どものため、また、家族のためにがんばってきた気がします。社会に影響を与える等、あまり考えてきませんでした。

- ・学校経営協議会、青少年活動、少年野球等に参画しており、機会があるごとに、地域での“犯罪予防活動”等、社会を明るくする運動の話をする機会があり、青少年健全育成に微力ではあるが頑張らせていただいている。
- ・大人が小学校活動を参加していることは将来、子どもには理解されると思う。
- ・近所の子たちは同年齢もしくは近い年齢でもありよく路上で遊んでいる。子どもたちの声は町を若返らせてくれる。
- ・子どもたちにとって、とても住みづらい社会だと思います。もっとのびのび遊べる公園、空き地など作ってほしい。
- ・街並み環境が与える影響も大きい。道路の清掃や公共施設の整備も大切と思う。

4. 困難を抱えている子どもや家庭と接する機会の有無・対応した内容

問5 今までに困難を抱えている子どもや、その家族と接する機会がありましたか。
(〇は1つ)



問5-1 【「機会があった」方のみお答えください。】

それはどのような困難で、その時に何か対応をした場合には、どのような対応をしましたか。(自由記述)

困難を抱えている子どもやその家族に対応した内容について、具体的な記載内容が一部あるため項目・件数のみ掲載している。

- 子ども・保護者の障がい 6件
- 家庭・子育ての問題 5件
- 不登校・ひきこもり 5件
- ひとり親家庭 4件
- 経済的困窮に対する支援 2件
- 非行・問題行動 1件
- その他 7件

5. 困っている若者の支援について

問6 その他、社会生活を送る上で、困っている若者の支援について、ご意見があればご記入ください。（自由記述）

■支援のあり方・方法

- ・力のない自分にもできる支援があればしたいが、情報を知ることができない。
- ・スマホやパソコン等、若者と連絡の取りやすい方法で、若者への情報の発信、相談等の活用ができると良いのでは。
- ・支援は困っている内容、質によると思う。「心」の問題で困っているのは目に見えない。いかに早期発見対応していけるか。直面している問題はないが、学生の多い町でも最小限のマナー（道路歩行、飛び出しなど）は守れないのかとってしまう。
- ・困っている具体的内容について、細かく把握すること、それらに対し援助する。
- ・困っている部分が見えにくいので、必要な支援もわかりにくい。
- ・手を出しすぎず見つめ続ける。
- ・何かに対応できず、社会に参加することに困っている若者のあるがままを受け入れることもとても大切なのですが、具体的に何が社会とのズレや困難を起こしているのか見つけ、時間をかけて支援し、本人の生きる力を育てていけるような取組も大切と思っています。
- ・一般的な社会の枠に収まらない若者の活躍や支援の場を複数設けて、選択の幅を広げる。
- ・困っている若者を特定できる方法がわからない。

■相談の場

- ・子どもたちや若者たちが抱える問題は多岐にわたると思います。何でも聞いてもらえて、アドバイスもらえる相談室があれば。気軽に行ける場所（図書館等）がよろしいのでは。
- ・子どもの貧困、また虐待の問題が大きな課題となっている。子どもを生き育てる若者への支援と気軽に相談できるシステムの充実が必要と思います。
- ・相談できる窓口を多く作り、解決の糸口を見つける。
- ・若者支援110番等の相談窓口の開設。
- ・相談内容の守秘義務は当然だが、カウンセリングの利用状況、トレンド（過去の実績との比較など）は必要に応じ知らせても良いのでは。相談窓口のドアは開いていますと周知する。
- ・困り事のある若者が自由にその悩みを語る場、人があると良いのではないか。受けとめる方は基本的に聞くことに徹し、決して説教じみたことは言わない。語ることで気が楽になることは意外と多い。今の若者はあまりそのような場を好まないという人もいるかもしれないが、意外と求めているような気がする。
- ・困り、悩んでいる若者が、気軽に相談できるところが、こういうようにあるのだと、もっと広報する事が大事。
- ・誰でも若い頃は悩み困りごとがあると思いますが、やはり第一は心の支援ではないか。機会があれば誰でも相談にのってあげる事が必要である。

■居場所づくり

- ・中高生の居場所作り。児童館ではできかねる。
- ・就職しても低賃金ゆえに、一人暮らしができない。“サポートシェアハウス”等の支援はできないものか。そこで年配者との関わりも自然に持てると良いのだが。
- ・家庭にも居場所のない子どもが少しずつ増加しているような気がします。児童館など話を聞いてもらえる大人が常にいて、安心して気軽に訪れることができる施設を増やしてほしい。
- ・まずは、地元で通える中学校までに、先を見通し、地域や関係機関とつなげていただきたい。そういう若者たちが安心して通える、居られる場所づくりと話し相手（相談相手として、本人が気軽に話せる人）と出会わせる。
- ・児童館のようにフラッと立ち寄り、よりどころになれる場所を市内に早急に増やしてほしい。

■家庭の教育力

- ・子離れできない親、親離れできない子。目立ちます。どうにかしないと。
- ・両親の教育が大切であると思います。
- ・「困っている」内容が問題。全ての若者に平等に支援する訳にはいかない。それよりも幼児から中学生までの間に、学校・家庭がしっかり教育する事。特に家庭での道徳教育（例えば善悪の区別等）が大切。学校側はその補佐と学問を教えることである。
- ・若者の声を聞くと、親が何かと関わってくるので、もう少し長い目で様子を見てもらいたいと言う子が多いように思う。若者に自覚、責任を持たせる。

■ひきこもり等に対する支援

- ・うつ病、引きこもり等であれば、体調の波に合わせて何らかの作業をする場の提供があれば望ましいと思う。「社会の役に立っている」「少しお金ももらえた」等の実感の積み重ねが大切と思う。
- ・ひきこもりには様々な原因がある。幼少時、小・中・高と、その環境に合わず不登校。昼夜逆転の生活。繰り返さないためにはどうすれば良いか。ある自治体では教育と福祉が連携し、その児童のシートを作成して、支援を継続している。アメリカ等でも、こういう事業があるようだ。
- ・義務教育終了以降の若者の引きこもりは、本人また家族からのSOSがないかぎり、手が回らない。
- ・社会生活の中で、手伝ってほしいとお願いして、引っぱり出す。誰かの役に立っているという実感を持ってほしい。

■経済的困窮に対する支援

- ・子ども食堂など、経済的に困っている人たちへの支援は素晴らしいと思います。
- ・貧困問題。
- ・経済的な貧困支援の多様性がもっと必要なのでは。
- ・奨学金を借りている子どもたちの生活状況の把握。学校卒業後、奨学金が返済できるような

仕事に就けているのか、返済計画が立てられるのか、しっかり自立ができるように支援する。給付型の奨学金だけでなく、奨学金を返済できる（仕事に就くなど）ように支援することも必要なのでは。

■その他

- ・将来に希望を持てるような若者にもさらに重点を置く社会制度の整備、就労などは特に重要。公的年金制度には大いに疑問を持っている若者が多いです。
- ・子どもたちが生活していく中でいろいろな人と出会い話をする、一緒に活動することで社会性が身につき生きやすくなるのではと思う。人との関わりを忘れずに育っていくことを望む。
- ・そのような若者と直接関わった事はないので、何とも言えませんが、マスコミでの発表等を見るかぎりでは、まず親が悪い、次に行政が役に立たない、でも最後は自分なので、周りをあてにせず、まずは行動することが大切なのは。
- ・「すぐキレる」とよく聞きますが、「落ち着く心があれば」「家庭がしっかりしていれば」「相談する大人がいれば」と考えます。
- ・我慢ができる子どもが少なくなったように思います。
- ・今後、LGBTに関する課題は避けて通れない問題だと思う。社会が多様化を受け入れるようになり、その上で社会から孤立する若者に様々な機会を提供していくべきだと思う。
- ・人と話すこと。人とかかわること。自分の気持ちを話すことができる人をみつけること。がんばれと思います。
- ・子どもたちの問題は、全てその原因は大人や大人の生活にあると思います。子どもを持つ立場になっても大人はさらに学んでいく事が大事でしょう。気軽に参加できる「学び」の講座など、機会がもっと増えると良いと思います。